

生活保護はぜい沢か？

——区内受給者の例から考える

月八万円をやりくりし、ドンキホーテなどの安売り店を回って食品や日用品を調達する毎日。それでも「つい申し訳ないという気持ちになり、笑って街を歩けません」（離婚を機に生活保護を受給した女性）。バッシング的な報道が目立つ中、それでも増え続ける生活保護受給者。区内の例からこの問題を考えます。

戦後勝ち取った国民財産

年金・最低賃金の改善こそ急げ

◆不況で仕事減り困窮

六十代の男性Kさんは、妻と障害ある息子を

扶養しています。企画・デザイン・印刷関連の

仕事を二十数年続けてきましたが、不況で注文

が減り続け、受注しても採算の合わない仕事が多

く、数年前からは経費が売上を上回るように



→生活保護の受給申請が増え続ける港区
保健福祉センターの窓口 今年1月

なりました。手伝ってくれていた三十代の息子は障害認定がないまま外へ働きにも出られず、妻の内職収入も僅か^{わず}で、生活は次第に困窮していきました。

区外で暮らす九十代の父親は認知症の母親の介護で手一杯。また兄は失業、弟は子育て真っ最中で、親族の誰からも援助は見込めませんでした。六十歳になると同時に国民年金を早めに受け取る選択も考えましたが、月二万円と知って断念。思い余って生活保護を申請しました。

◆「生存権」掲げ交渉

「別の仕事を探した方がよいのでは」という窓口に、「仕事には誇りを持っています。真面目^{まじめ}に働いているのに食べていけない国民を助けるのが生活保護。何のために憲法第二十五条（すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する）があるのですか」と粘り強く交渉し、認められました。

Kさんは現在も仕事は続け、息子は担当者の助言で障害認定の手続き中（まだ認定の目途は立っていません）。Kさんは今、次のように話しています。

◆採算割れでも続けたい

「何とか食べていけるだけの利益を上げて、保護なしでもやっていけるよう営業努力はしていますが、この不況では見通しが立ちません」

「若い時から続けてきたこの仕事はそれなりの技術習得も重ねてきたし、世の中に役立ち、相手にも喜んでもらえるので、たとえ採算割れでもやめることは考えられません。今は職業選択の自由がまるで贅沢^{ぜいたく}のように言われていますが、得意分野を生かして働けない、そんな社会の方がおかしいと思います」

◆ささやかな楽しみ

「それでも生活保護のお陰で最低限の生活が保障されているという安心感は妻にも息子にも見られ、以前よりずっと落ち着いた表情をしています。たまに三人で近くの喫茶店へモーニングサービスの朝食をとりに出かけることがあります。以前には考えられないことでした。今、生活保護受給者へのパッシング報道が続き、まるで生活保護が『贅沢^{たんよ}』であるかのような空気がさえ漂っています。私たちのこんなささやかな楽しみも『贅沢』なのでしょう」

◆「不正」は適切処理を

「確かに、誰が見ても必要のない人が受けている」「不正」な事例も知っており、えげつない貧困ビジネスも存在します。が、それはそれで行政として適切に対処すればよいのであって、十羽ひとからげに「贅沢」や「不正」扱いし、本来に保護が必要な人にまで肩身かたみの狭い思いをさせるのはいかなものでしょう。少なくとも私たちにとって生活保護制度はきちんと機能してくれています」。

◆異常なムードに便乗も

——お笑いタレントの母親の受給問題を機に、国民から「チェックが甘い」などの厳しい意見が相次ぎ、果ては「昼間からパチンコばかりしている」「貯金があるはずだ」など受給者に関する「チクリ」まで出る始末。そして、こうした異常なムードを千載一遇せんざいいちぐつのチャンスとばかりに、民主党政府や自民党は「親族の扶養義務を厳しくする」「給付水準を引き下げる」「保護期間を限定する」などの方向を打ち出し、大阪市の橋下市長も「不正受給の撲滅ばくめつ」を煽り立てています。

◆「やる」ことが逆や」

その一方で、港区民の間では「ヤクザや議員を利用した強引な受給はあかんけど、ほんまに困ってる人は堂々と受けたらええ」(南市岡・七十年代男性)「生活保護を引き下げるより年金や最低賃金を引き上げる方が先。政府や橋下市長はやることが逆です」(波除・四十代女性)「国の台所がそれほど苦しいなら莫大ばくだいなアメリカ国債を売ったらええがな」(築港・九十代男性)「市の福祉財政がそれほど厳しいのなら、有害なカジノや無駄なりニアやアホな道頓堀プールをやめたらええねん」(八幡屋・三十代女性 など沈着冷静な姿勢が健在です。

◆問われる区民の良識

真面目に生活し、働いている限り、人間らしい最低限の生活を保障されるという憲法二十五条の「生存権」。その具体化である「生活保護制度」は、戦前の貧困と戦争による血の犠牲の上に戦後日本国民が勝ち取った、かけがえのない国民財産です。それを維持できるかどうかの「正念場しょうねんば」ともいわれる現在。保護率五割ごかく(全国の三倍超)と貧困化が全国水準を大きく超えて

進みⅡ表参照、受給者も身近に見受けられる港区。制度の維持・充実に向けて、区長ら職員の行政努力と共に、区民の良識と人間性、社会性が問われています。

港区・大阪市・全国の生活保護率(人口比)の年度別変化

年度	港区の被保護人員	港区の保護率	大阪市保護率	全国の保護率
1993	1500人	1.67%	1.73%	
1995	1579人	1.76%	1.80%	0.98%
1997	1716人	1.94%	1.94%	0.95%
1999	1943人	2.22%	2.31%	1.01%
2001	2085人	2.40%	2.82%	1.12%
2003	2382人	2.81%	3.54%	1.05%
2005	2847人	3.43%	4.02%	1.16%
2007	3083人	3.69%	4.33%	1.21%
2009	3662人	4.37%	5.13%	1.38%
2011	4224人	5.02%	5.69%	1.56%

※大阪市健康福祉局、港区保健福祉センター、厚生労働省などの資料を総合。

※港区の2003～2011年の数字は年度平均ではなく、各年12月の数字。

※全国の1995～2001年の保護率は全国総合平均ではなく、都道府県別保護率の単純平均。

あさやけ

「木を見て森も見ろ」大切さが改めて思われ
ました。シリアで殉職した戦場記者の山本
美香さん。「まず現場へ」「過酷な状況にいる人
たちの声を」という取材姿勢には常々敬服し、
水準が違うとはいえ同業者としてその死を心か
ら悼んだ次第です。ただ、「とてつもない暴力

を（政府軍が国民に）使っている」とする視点
には、去年のリビアと同様、欧米の資本がシリ
アを自分たちに都合のよい政権に替えるため反
政府勢力を支援している、という大きな事実を
見逃させる矛盾も感じ、それが冒頭の思いに繋
がったのでした▼とはいえ本当に「木も森も見
ろ」このことができる人がこの世にいるでしょうか。

人間とは実に「奇しい」（聖書）存在ですが、
自分で造り上げた訳では勿論なく、宇宙から砂
粒に至るまで未知の領域は無限。「木も森も見よ
う」「港区も世界も見よう」と努めはしても、そ
う出来ると考えるのはそれこそ身の程知らず。
筆者の世界観も創造主の目から見れば「お前は

アホか」と思われているかも…。お互いあくま
で謙虚に生きていきたいものです▼と、ここま
で書いたところで全国高校野球決勝戦の結果を
妻が教えてくれました。「やった大阪桐蔭、や
ったやった〜い」「アホやなあ、どっちが勝って
もええやないの、全力で頑張っけんから」「あ…。
どうも大阪を見て全国を見てなかったようで…
（でもやっぱ、ウレシピー）。

働く仲間の相談所

無料

倒産、解雇、
賃金不払い、
条件切下げ
など何でも

困ってませんか?

港合同

(南市岡3-6-26)

☎6583-4858

戦争体験の継承を！

南市岡で大空襲を語る集い

「戦争体験を語り継ぎ、地域に反戦平和の力
を築き上げよう」「同じ核被害である原爆と原発
について語り合おう」と八月十一日、南市岡の
田中機械ホールで「大空襲の体験を語る集い」
が開催されました。「平和と福祉」を掲げる特定
非営利活動法人「NPOみなと」の主催で十二
回目。区内外から約五十人が参加しました。

◆原爆と原発は同じ

集いではまず、司会の高橋健治さんが憲法第
九条（戦争の放棄、軍備及び交戦権の否認）を
読み上げた上で、①「国家防衛や「核兵器開発」
に繋がる「我が国の安全保障に資する」との
文言がいつの間にか原子力基本法に盛り込ま
れたこと②戦争体験継承運動の柱だったNPO
代表理事・大和田幸治氏や大阪大空襲研究の第
一人者・小山仁示氏らが今年相次いで亡くなっ
たこと③戦地体験者や空襲体験者も次々と亡く

なま



→「戦争体験を継承し、地域に反戦

続いて、新しくNPOみなと代表理事に就い

たまき

このあと、**昨年の集いで故大和田代表理事が**

になった基調報告の様子がビデオ上映されました。

続いて大阪戦災傷害者・遺族の会会長の伊賀

かけました。

か
こ

社会問題

支援は人の受け入れで

震災がれき受け入れに市民反発

「ただお金を下さい」という運動ではない」という杉山千佐子・全国組織会長の言葉も引きながら、「弱い立場の民間人への補償が切り捨てられてきた。体が動く限り訴え続け、何としても援護法を作っておきたい」と切実な胸のうちを語りました。

◆深く考えさせられた

このあと戦争体験記の朗読や戦争と平和を考えさせる映画の上映が行なわれました。

参加した六十代男性は「玉置さんの基調報告からは、自分の親など身近にある戦争体験を掘り起こす必要を感じました。また大和田さんのビデオからは、戦後社会の在り方こそが原発などの大災害を生んだ根本原因だということが、伊賀さんの講演からは、政府というものは、国民がいかに苦しくとも、黙っていたら何もしないことが分かりました。戦争を軽く考えがちな若い世代のためにもこの催しは続けてほしい」と話していました。

「被災地支援はがれき受け入れでなく人の受け入れで」

はしもと

「橋下市長は危険な広域処理を勝手に決めるな」。大阪市と大阪府が岩手県の震災がれき受け入れを決めたことに対して市民の反発が広がっています。八月三十日には北区中之島の中央公会堂で市主催の「東日本大震災により生じた廃棄物の広域処理に関する住民説明会」が開かれましたが、これに対する抗議行動が市役所前などで行なわれ、市民多数が声をあげました。

さんりづか

港区からも「三里塚産直野菜の会」

ながわたみえ

（磯路）の長澤民衣さんらが参加しました。

◆山本太郎さんも訴え

行動は午後三時に市役所前で始まり、チラシ配布、署名活動、歌や演奏、俳優・山本太郎さんのスピーチ、リレートーク、抗議のダイ・インなどが次々と行なわれ、説明会（七時～八時半）参加者の報告で締めくくられました。

この中で山本太郎さんが「がれきには放射性物質のほか重金属などの有害物質が含まれている。皆さんはどんどん怒った方がよい」と訴えると参加者から拍手が起こり、「がれき、要らない!」のシュプレヒコールが繰り返されました。

◆「信用できない」の声も

説明会への入場は大阪市民に限定され、七五



→港区民も声を上げた、震災がれき受け入れへの抗議行動Ⅱ8月30日、北区

○席の六割程度が埋まりました。まず担当者らが受け入れの概要について「岩手県内の木くず等の廃棄物（放射能濃度が不検出または微量）を、高度な排ガス処理施設を有する舞洲工場^{まいしゅう}で焼却し、焼却灰は最も安全性の高いゼオライトを使用する工法で北港^{ほくこう}処分地に埋め立てる」「平成二十四年度は試験焼却一〇〇トを含む約六一〇〇ト、平成二十五年度は約三〇〇〇トを受け入れる」と説明。これに対して参加者から「信用できない」「受け入れ反対」「市長やめる」などの声上がり、市職員らが「静粛に」と繰り返し求めました。

◆来年2月受け入れへ

大阪府・市による被災地がれきの受け入れを巡っては、①六月二十日の大阪市戦略会議で「受け入れ」を決定②六月二十六日の府市統合本部会議でも「受け入れ」を確認③六月二十七日、七月二日、四日に此花区で地元説明会を開催④七月二十七日に大阪市議会ががれき処理予算を可決⑤八月三日に岩手県・大阪府・大阪市が「合意書」取り交わし^かという経過を辿^{たど}りましたが、この日の説明会をもって住民説明は打ち切れ、

←抗議集会では子供たちも声をあげた



この後は、①十一月に試験焼却②来年一月に試験焼却結果公表、本格受け入れ説明会③二月に本格受け入れへと進むことになっています。

◆市・府は「安全」強調

その中で市・府・環境省は、がれきの「安全性」について次のように強調しています。

「現地だけで処理できない分を現地以外の所で処理するという形で復興を支援する。岩手は福島原発から相当離れているので『災害がれき

Ⅱ非常に危険』という誤解はしないでほしい」

「受け入れ廃棄物は木くずを中心とした可燃

物であり、現地で破砕^{はさい}・選別されたもの。これを密閉式のコンテナで海上輸送し、大阪港からは飛散防止シートをかけて陸路で舞洲工場まで運ぶ。舞洲工場では一般ごみと混ぜて焼却するが、その灰は北港処分地で埋め立て処分する」

「放射能に関しては食品に関する厳しい基準と同じ一〇〇ベクレル／キログラム以下の物しか受け入れない。既に現地で破砕・選別する前にその基準を大きく下回っているが、さらに各工程で細かく測定しながら速^{すみ}やかに公表し、万一異常が出たら処理を中断する」

「焼却工場にはバグフィルターという非常に細かいフィルターを備えた排ガス処理設備があり、セシウムは这其中で煤塵^{ばいじん}に吸着してバグフィルターに捕えられるので、ほぼ一〇〇％除去できる」

「埋め立てにはゼオライト敷設^{ふせつ}工法を採用するが、これにより、たとえセシウムが入った焼却灰を埋めたとしても事実上の封じ込めができる」

「このような工程・工法及び安全基準で処理されるので、工場や処分場周辺の住民、また運

送や焼却に携わる人の安全は完全に確保され
ると考える」

◆市民は疑問・危惧・怒り

これに対して市民の側は、怒りと共に次のよ
うな疑問や危惧を説明会などで繰り返し表明し
ています。

「震災がれきには放射能だけでなく他の有毒
物質も含まれているので本来燃やしてはいけな
い。放射性物質が付いた物を燃やすことは世界
のどこにも例がない。焼却が始まれば二年間毎
日、煙突から放射性物質を含む有害物質が放出
され、風向きによって大阪だけでなく近隣府県
を汚染地帯に変えてしまう」

『「一〇〇ベクレル／キログラム以下なら安全」と市
長らは言うが、一〇〇ベクレル／キログラムの放射性
物質がドラム缶で保管されているのは安全でな
い証拠。しかも燃やせば約三十三倍に濃縮され
ると専門家も指摘している」

「セシウムは煤塵にだけでなくバグフィルタ
ーにも吸着するので焼却炉そのものが放射性廃
棄物になる。だから当然、焼却や運送にかかわ
る労働者も被曝する。広域処理は放射能の拡散

であり被曝の拡大そのものだ」

「当初予想されていたがれきの量はどんどん
下方修正され、大阪が請け負う量も当初の一八
万トから三・六万トへ大幅減少した。これは現
地でも充分処理できる量だ」

「処理費用のうち運搬費用が三分の一も占め、
これを現地で処理すれば運搬費用もかからず、
処理費用が国から被災地に落ち、雇用も生まれ、
復興に繋がる。宮城県ではがれきを防潮堤建設
などに使う計画が進行し、『今あるがれきを全部
使っても足りない』と言われているほどだ。受
け入れの根拠は全くない」

「それでも受け入れを強行しようとする本当
の狙いは、処理に伴う特別交付税を国から獲得
すること、根本的には『分かち合う』を合言葉
に労働者の怒りを抑えつけ、『広域処理』という
形で自治体の枠組みを取り払って道州制に道
を開くことにある」

「被災地支援を言うなら、がれきではなく被
災者を受け入れることこそ本当のあり方ではな
いのか」

——震災がれきの受け入れについては市民の
不安・危惧・怒りが広がっていますが、市・府・
国がそれらに応え切れているとはいえません。
本当の被災地支援とは何なのか——市民の熱い関
心と冷静な考察、積極的な意思表示が求められ
ています。

催しガイド

■震災がれきの広域処理を考える学習会 九月

二十日（木）十九～二十一時に弁天町市民学習
センターで、同二十六日（水）十九～二十一時
に此花区民センターホールで。放射能から子ど
もを守るママの会が主催。資料代三百円。

■障害者相談所「ほのぼの」が好評 毎月第三

火曜十四～十六時、八幡屋商店街のヤハタヤ・
プラザで。港区障害者地域自立支援協議会事務
局（障害者福祉の連携チーム）のメンバーが、
障害者や家族・支援者の話を聴き、アドバイス
する。①障害者手帳を取得する方法②サービ
ス・制度の紹介や手続き③職場の人間関係への
対応④作業所の紹介⑤就職活動のサポート—
等々。問合せは港区保健福祉センター保健福祉

担当 (TEL六五七五・九八五七、FAX六五七二・九五一四) へ。

■自閉症児を応援する気エネルギーワーク

口の気エネルギー療法士が「自閉症児の体や心が少しでも楽になれば」と続けている。「気楽な参加」を呼びかけ。参加費無料。要予約。毎月第二・第四土曜(九月は二十九日、十月は十三、二十七日) 十五〜十八時に松井整骨院内で。弁天四・一〇・二六、☎六五七二・一一六五。

■ムチ打ち(首・腰) 無料相談会

交通事故でムチ打ちになった被害者が対象。九月二十三日(日)十〜十八時に行政書士のむら事務所(築港三・七・一・六〇八)で。一人約一時間。「どうしたら正当な補償が得られるかアドバイスします」「事故後早めの相談が良い結果に繋がります」(同事務所・野村光恵さん)。電話(六五七六・六〇七八)かEメール(info@jiko10-nomura.com)で要事前予約。

■「海の日」記念・中学生海の作文コンクール

海への関心を高めるため毎年実施。海(海運・造船・港湾など海に関わる事)を主題に四百字詰め原稿用紙五枚以内で。九月三十日締切▽応募

募及び詳細は主催の近畿海事広報協会(海岸通一・五・二五、☎六五七三・六三八七) へ。

■緑の地球ネットワーク(GEN)

大同市の黄土高原で九二年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている。次のような協力方法がある。①会員になる②年会費一万二千円③会報を購読する④年間二千円⑤カンパする⑥金額自由(税制上の優遇措置あり)④絵はがき『黄土高原の花』を購入する⑧八枚組三百円⑤ビデオ『よみがえる森』を購入する⑥三十分五千円⑦古切手・書き損じはがき・外国コイン・商品券等を送る⑦ボランティアになる⑧会報発送など▽いずれも詳細はGEN事務所(市岡一・四・二四・五階、☎六五七六・六一八二) へ。

■港南中学校同窓会から呼びかけ

「今年は港南中学校創立五十周年ですが、同窓会全体での『記念の集い』開催は難しいので、期ごとに開催するように」と木村良雄会長(田中)が呼びかけている。また一期生(約五百八十人)の集いが十月二十八日(日)正午からホテル大阪ベイトワで開催される(参加費七千円、申込締

切十月十日)。問い合わせ・申し込みは☎〇八〇・三七七六・六一二八同会長まで。

■なに輪祭り

障がい者・健常者関係なしの、様々な団体による毎夏恒例のバリアフリーイベント。十回目。ポップバンド、ロックバンド、よさこいチーム、ダンスグループなどが元氣一杯に歌や踊りを繰り広げる。九月十六日(日)、十七日(月祝) 十〜十九時、天保山サンセット広場で。入場無料。踊りやボランティア活動を通じて青少年の健全育成を目指すNPO法人

■「夢乱舞」(大正区平尾)と実行委員会が主催。

☎〇五〇・一四六一・〇五二一。

■雅楽観賞会

「雅楽を通じて地域の活性化を」と毎秋開かれる伝統行事。千年ほど前に今の形になったといわれる、雅楽や祭祀舞の神秘的で



ゆつたりした音色や動きを味わう。九月二十九日(土) 十九時～二十時半頃に天満宮(三先一五・四〇、港南中学校北隣、☎六五七一・〇五二七)境内で(雨天なら翌三十日の同刻)。鑑賞無料。同宮主催で三回目。十九時から大阪府神道青年会演劇同好会による「大祓詞」口語訳の読み語り、十九時半から和宗総本山四天王寺僧侶荻山教生氏による仏教経文「声明」の説明と朗詠があり、二十時頃から大阪府神道青年会雅楽同好会による「雅楽・舞」が披露される。写真は昨年の演奏風景。

読者コーナー

盆踊り

(池島1・勝部泰臣79歳)

どの人にも「心の故里」だろう盆踊り。樽の上から八方に吊り渡された提灯がいい。紅白の櫓幕を囲んで踊りの輪。見る丈でもイヤなことを忘れてしまう。日本の文化の原点ここにありか。経験豊かな地域のリーダーのもと、準備から片付けまで黙々とこなす町内の世話役やら若い人達。昨夜お菓子を買って帰った子供

達。自転車素つ飛ばしてたのや、ばあちゃんに手を引かれ浴衣姿もいじらしい幼な児。この子らが後を継ぐまで盆踊りの風習は残っているだろうか。こと盆踊りに関しては何もかも今のままであつて欲しい、そういう日本の国であつて欲しい。炎天下、片付けをしながらそう願つたのは私一人ではないだろう。

市民学習センターの存続を願う

(磯路・70代女性)

私はパソコンを使わないので冊子を申し込み、読ませてもらっています。字も大きく、写真もカラーで、とても読みやすいです。その中で「学習センターなくさん」として! (前号トップ記事)が目につきました。こんな市民に喜ばれている施設を無くそうとするなんて、考えられません。春や秋の発表会(センターまつり)などで弁天町市民学習センターにはよく行きますが、とても気持ちよく過ごせる施設です。活動している方たちも生き生きしておられます。この人たちにとつて、ここが学びの場、交流の場、生きがいの場というのは本当だと思います。橋下

市長さん、むごいことはやめて、ぜひこの施設を続けさせてあげて下さい。いくらでも無駄遣いはあるはず。そちらを削って下さい。お願いします。



→読者の作品から辻悦子さん(市岡元町3)の絵手紙

強制疎開に戦争の無情さ甦る

(夕風・90代女性)

岡崎和子さんの「平和のため戦争体験語り継ぐ」(8月号40頁)を読んで。岡崎さんが経験した強制疎開の様子を読み、当時の写真を見て、私の家の強制疎開(間引き)を思い出しました。延焼を避けるためとはいえ、長年暮らした自分の家を近所の人たちの手で引き倒されるのを見るのは、とても情けないものでしたが、町のため、国のためと耐えました。戦争の無情さが甦り、涙が出ました。あんな思いは二度としたくありません。これからこういう体験談をのせ続け、若い人たちに戦争の悲しい歴史を伝えて下さい。

そろばん復権へ森友さん頑張れ!

(港晴・50代男性)

「みなと区人物列伝」(8月号38頁)を読んで。そろばん復権の仕掛け人・森友建さんのそろばん教育にかける情熱や、そろばんの驚くべき効用がよく分かり、ぜひ教育の中核にそろばんを置いてほしいと思いました。今の「勝てば

よい、結果さえ良ければよい、自分さえ良ければよい、早ければよい、楽であればよい」という風潮への危機感や、子供集団の持つ力への期待感にも共感を覚えました。港区が生んだ素晴らしい指導者。これからもぜひ頑張って頂きたいと思います。

扇温泉のカンバックうれしい

(田中・60代男性)

「やつぱ薪の湯はええ!」(8月号22頁)を読んで。以前に何度か読んだ港新聞の記事で、扇温泉が薪のお湯であること、銭湯経営は大変な長時間重労働であることなどを知っていましたが、そこが休業からカンバックされたこと知って、我が事のように嬉しく思いました。厳しい経営を覚悟の上で近所の人たちのために「もう一度!」と決断された気持ちや、近所の人たちの温かな激励の様子が伝わってきて、思わず胸が熱くなりました。うちの近くの「みなと温泉」も長い間休業されていますが、ぜひ再開してほしいと皆で願っています。(編集部よりみなと温泉再開の記事が14頁にあります)

マンション管理交流会は必要

(築港・マンション住人)

紙の港新聞がなくなったのでホームページで見ましたが、前と同じように内容が充実していて嬉しかったです。その中で、「経験学び合い快適なマンションライフを」(8月号9頁)をマンション住人として興味深く読ませてもらいました。管理会社任せは楽だが良くないこと、修繕では良心的な業者を慎重に選び、その信頼関係を続けるのが良いこと、管理会社に負けないくらいの(知恵や力のある)管理組合を作らなければならないこと―等々、とても参考になりました。こういう交流会は本当に必要だと思います。主宰者にはぜひ頑張ってもらいます。

楽しい催し一杯、港区は温かい

(八幡屋・40代女性)

知人に勧められて港新聞の冊子版を読むようになりました。港区に引越してまだ二年しかたないのに、あまり地域の特徴は分かりませんでした。前号16

頁)、「くつきり月面に歓声」(18頁)、「工場街にコンチキチン」(19頁)「笹を囲んで国際交流」(21頁)「やっぱ薪まきの湯はええー」(22頁)などの記事を読んで、とても温かい地域であることが分かりました。いい新聞を知ったこと、また、いい地域に暮らせることに感謝しています。一年間の購読料三千円は、内容からして安いと思います。

学生時代のバイト思い出し胸熱く

(築港・60代男性)

港新聞がホームページだけになってからも読ませて頂いていますが、「団塊だんかいつれづれ草」はいつも楽しみです。八月号では「青春はバイトと共に」のタイトルで学生時代のアルバイトの日々が語られていましたが、私も高校三年生の夏休みに海水浴場の見張りのバイトをした経験があり、当時を思い出して胸が熱くなりました。大事な時期にバイトしたため翌年の大学受験に失敗してしまいましたが(これは言い訳かも...)、そんなことも含めて、やはり青春は甘く懐かしいものですね。次号も楽しみです。

福祉

盲ろう者が料理楽しむ

波除の「手と手とハウス」

大阪ガスと連携 初の試み

「見えず聴こえなくても料理は楽しめるでー!」。波除にある生活介護事業所「手と手とハウス」(NPO法人大阪盲ろう者友の会が運営)の利用者が介助者らのサポートを得ながら秋の料理を楽しみました。港区社会福祉協議会の仲介で同事業所と大阪ガス(株)大阪リビング営業部コミュニティ室が連携し、大阪ガスクッキングスクール淀屋橋の協力を得て実現した初の試み。

●「秋かおる和風」テーマに

エプロンと三角巾さんかくしんのクッキングスタイルでこの「お料理講習会」に参加したのは、盲ろう者十四人とそれぞれの介助者十四人、同事業所職員三人、港区のボランティア手話通訳サークル「帆船」はんせんの四人ーの計三十五人。同クッキングスクールのスタッフから全体説明を受けた後、障害程度と料理に合わせた七人ずつの五班に分

かれ、「秋かおる和風」をテーマにした五つのメニュー(①ほうれん草とえのき茸たけの柚子風味②里芋さといものコロツケ③きのこ飯④沢煮さわに椀⑤水ようかん黒ゴマ風味)に挑いどみました。

●最新ガス機器を使って

明るく広々としたクッキングスペースには、安心・安全、温度キープ、自動炊飯など種々の便利機能を搭載し、手入れも簡単なS i i センサ



→介助者⑥と大阪ガスクッキングスクールのスタッフ⑦のサポートで「きのこ飯」の具を炒める全盲・難聴の男性

ーコンロや、簡単でスピーディに調理ができるガスオーブンなどの最新ガス調理機器がずらりと並び、それらを使いながら、下ごしらえ、そして調理へと進みます。

●介助はマンツーマンで

盲ろう者の横には介助者がマンツーマンでぴたりと寄り添い、指^{ゆび}点^{てん}字^じや触^{しょ}手^て話^わなどのコミュニケーション法を駆使して、「点火して下さい」「^{だし}（出汁^{でし}が）綺麗^{きれい}に溶けているから（かきまぜを）やめてもいいよ」「右側のボールに（出汁を）移して」「下にご飯、上にきのこがあります。それらをかきまぜて」など調理の手順や要領を伝えます。デジタル補聴器などで僅^{わず}かに聴こえる人には耳元への声かけを併^{あわ}せて用いる介助者の姿もありました。

●「香りに秋を感じた！」

約一時間半かけて調理は終了。参加者は自分たちが作ったそれぞれの料理を味わいながら、「薄味でヘルシーなのに、香りでしたっかりカバーされていて、とても美味しい」「お鍋やフライパンからたちこめる香りに秋を感じた」「里芋は崩すとべちゃつとなったが、最後にパン粉を付

けるとしつかり形になった」などの感想を指点字などで伝え合い、満足そうでした。

大阪ガスの担当者は「これまでに視覚障害者のクッキングをサポートさせて頂いたことはありますが、盲ろう者は初めて。最初は『無理!』と思いました。打ち合わせを重ね、メニューにも香りを楽しんで頂けるよう工夫を重ねて実現しました。思ったよりスムーズに進み、楽しんで頂けてホッとしています」。同行した港区社会福祉協議会の荻野^{おぎのかずよ}和代^{わしろ}さんは「メニュー担当の方が、盲ろう者の嗅^{きゆう}覚^{かく}と触^{しょ}覚^{かく}が研ぎ澄^とまされていることを考え、五品全てに特徴的な香りのあるものを取り入れて下さいましたが、参加者がそのメッセージをしっかりと受け取っておられたことに感動しました」と話していました。

●一般の人と同じ体験を

「手と手とハウス」として初の試みを終えた松本さん（サービス管理責任者）、増田さん（支援員）は、「盲ろう者が一般の教室に参加したくてもなかなか受け入れてもらえない現状の中で、社協さんと大阪ガスさんのご協力で実現でき、一歩開くことが出来たように感じています。香

りから秋を感じられる食材や、健康を考えた味付けを考えて頂いたことにも感謝しています。

今後も盲ろう者が一般の方と同じ体験が出来るよう取り組んでいきたいと思いますが、私たちだけでは壁がありますので、ぜひ皆さんのご支援をお願いします」と話していました。

●生活介護事業所として

「大阪盲ろう者友の会」はヘレンケラーと同じ、目と耳の両方に障害を持つ人たちの支援組織として約二十年前に設立。城東区深江橋を拠点に活動していましたが、約十年前、港区に移転。同会が運営する「手と手とハウス」は今年三月、粘り強い要求運動の末に大阪府から「障害者自立支援法に基づく生活介護事業所」として認められました。約二十人の利用者と各介助

者らが月々金曜の十時十五時、①情報提供②コミュニケーション学習会③調理研修④手作り作品の製作・販売⑤レクリエーションなどの活動を行なっています。波除五・四・一八・一階 〆六五八五・三〇三一、FAX六五八五・三〇三五、Eメール…tetoteto.house@nifty.com

馴染み客の顔を思い浮かべ

みなと温泉 カンバツ

「待ってたんや」「よかったなあ」。次々と番台に声をかけながら入ってくるお客さんたち。九月一日、「みなと温泉」（田中一）の脱衣場・浴場は、半年ぶりの営業再開を我が事のように喜ぶ顔、顔、顔で溢れました。



→『よかったね』と皆さんから声をかけて頂き、励まされました」と喜ぶ清水キミさん（奥）と芳子さん

◆病氣乗り越え再開へ

昭和二十八年創業、銭湯本来のゆったり広い湯舟が人気の同温泉が「しばらくの間、休業させて頂きます」とのお知らせを玄関に貼り出したのは今年三月五日。二代目主人・清水和彦さん（五九）の持病・腰痛の慢性化に加えて妻の芳子さん（六〇）が体調を崩したことが原因でした。馴染み客の顔が浮かび、辛い決断でしたが、和彦さんの母親・キミさん（九〇）とも相談の上、恢復に専念することにしました。途中で別の病氣が見つかったり、近隣で火事があつたりと、再開を阻むような出来事もありましたが、「首を長くして待っているお客さんのために」「銭湯の灯を消したらあかん」という気持ちでそんな困難を乗り越えさせてくれました。

◆ゆったり湯舟がええ

さっそく訪れた常連客の一人、夏井宏さん（八〇）（田中在住）は「ここは近いし、何より

湯舟がゆったりと広いのがええ。休みの間は困ったけど、再開してくれてよかったわ」。また波除から自転車で行って来た四十二歳の男性は「八年くらい前からの常連です。休業中は他の銭湯も利用しましたが、再開と聞いて飛んで来ました。広い湯舟で造りがシンプル。昔ながらの銭湯のゆったりとした雰囲気が好きです。それにガス遠赤外線ミネラルサウナの気持ちよさは癖になっています」と話していました。



→営業再開したみなと温泉。①心身の健康②省エネ③地域活性化に貢献する銭湯の灯をみんなで守ろう！

◆扇温泉カンバックに続く朗報

経営難にも公的助成がほとんどなく、長時間重労働にも耐えながら、地域の健康と交流の場を維持し続ける銭湯業者。高齢化や設備老朽化を機に廃業に至る例が後を絶ちません。その中での扇温泉（市岡2）カンバック（前号22頁）に続く朗報に、区民は励まされています。

みなと温泉

田中一・一三・一四、**六五七**
三・〇九一三、営業十六時～翌日一時、定休金曜日

銭湯へ行こう!

裸のコミュニケーションで心身健康、地域も元気。銭湯は世界に誇れる日本の伝統文化!



みなと銭湯ファンクラブ（港新聞内）

奉仕活動

多彩な芸に涙と笑い

絆会が老人保健施設を慰問

港区のボランティア慰問グループ「絆会」
（森上行茂代表）の七人が八月十二日午後、介護老人保健施設「港さつき苑」（医療法人英臯会、弁天四・一六・一八）を訪れ、多彩な出し物で入居者約六十人の涙と笑いを誘いました。

★花笠音頭など次々

同会の同苑慰問は三回目ですが、今回は「入居者の増加」と「年配者の体力」を考慮して二回に分け、それぞれのプログラムを短縮して行なわれました。

第一部では高比良よしみさんの「がんばれ援歌」を皮切りに、「母鏡」（森上孝子さん）「酒よ」（播磨政廣さん）「花笠音頭」（男性が歌、女性が踊り）「孫」（森上行茂さん）「望郷山唄」（永田勝枝さん）「安里屋ユンタ」（藤田佐知子さんと佐藤純子さんが三線で）「炭坑節」（同）「お祭りマンボ」（佃陽子さん）——と続き、最

後は「上を向いて歩こう」の全員合唱で感動的に締めくくりました。

第二部は「リンゴの唄」の全員合唱でスタート。「真室川音頭」（佃陽子さん）「みちのく渡り鳥」（森上行茂さんと播磨政廣さん）「安里屋ユ



→多彩な出し物で入居者を楽しませた絆会メンバー（写真は最後を飾った

『河内おとこ節』の総踊り） 〓 8月11日、港さつき苑（弁天4）で

ンタ」(藤田佐知子さんと佐藤純子さんが三線
で)「炭坑節」(同)「岸壁の母」(永田勝枝さん)
「幸福行き」のふるさと列車」(全員)——と続き、
最後は男性陣の歌と女性陣の踊りによる「河内
おとこ節」で賑やかに締めくくりました

★温かみのある演出

このうち初登場の三線演奏では、琉球ムー
ド溢れる独特の音色に誘われるように、入居者
の唱和や職員の手踊りが加わりました。また、シ
ベリア抑留の息子を待ち焦がれる母の心を歌った
「岸壁の母」では、杖とモンペ姿での熱唱に
感極まったのか、ハンカチで口を押さえる女性
の姿が見られました。

全体的に「限られた時間の中で入居者の心に
少しでも潤い」という、準備に手間暇かけ
た温かみのある演出が印象的でした。終演時に
は「今度はいつ来てくれるの?」と問う入居者
と「また来ますから、お元気でいて下さいね」
と応えるメンバーが手を取り合って別れを惜し
んでいました。

★みんなの心が一つに

約一時間半に亘る慰問を終えた会員らは「い

つもの事ですが、手拍子や拍手で盛り上げて頂
き、演じる私たちの方が元気をもらったくらい
です。みんなの心が一つになったように感じら
れ、すごく良い事をした満足感で一杯になりま
した。介護というのは誰もが通らなければなら
ない道。これからも体の続く限り慰問を重ねて
いきたい。そして、絆会自体もボランティア慰
問グループとして更に進化していきたいと思
っています」と話していました。

★苦しんだ経験を力に

同会は八幡屋など区内に住む八十代〜四十代
の区民十数人で二〇〇七年一月発足。港区を中
心に老人施設などへの慰問を続け、今回で二十
七回目。森上会長はじめ絆会メンバーの多くは、
大病など何らかの人生の危機を乗り越えてきた
人たち。「苦しんだ経験を生かしたい」「余生を
世のために」という気持ちで、真心のこもった
精力的な慰問活動のエネルギーになっているよ
うです。

趣味・娯楽

健康的な雰囲気で

みなと麻雀大会 福田さん初V

「認知症予防や生きがいづくりに効果があ
る」と注目を集めている麻雀。その愛好者に
よる港区最大のイベント「みなと麻雀大会」が
八月六日、「マージャンひろ」(磯路三・二五・
三、六六五四・六六四三、中嶋弘さん経営)
で開催されました。港区麻雀業組合(竹馬進会
長)主催で三十六回目。

八十〜四十歳代の男女三十六人(うち女性十
七人)が正午から九卓を囲んで四回戦を行ない、
数時間に亘る知的な駆け引きの末、優勝は福田
幸子さん(七五)(都島区)、準優勝は鴨川忠弘
さん(七二)(福島区)、三位は三村富喜江さん
(六二)(港区市岡)でした。

優勝の福田さんは八年ほど前から「みなと麻
雀教室」(マージャンひろで毎週日・火・金曜開
催)に通い、この大会にも毎回参加しているそ
うですが、優勝は初めて。「楽しい麻雀ゲームに
出合い、友だちも沢山つくれた上に優勝まで出

来、とても幸せです。副賞は（千葉県に住む）孫にプレゼントします」と満面の笑みをたたえながら話していました。なお、福田さんには港区麻雀業組合から二段位が贈られました。競技全体を通じて、麻雀には付き物とされる飲酒も喫煙もなく、競技前には挨拶し合うなど、健康的な雰囲気が印象的でした。



→ 健康的な雰囲気が印象的だった
「みなと麻雀大会」 Ⅱ 8月6日、磯路の「マージャンひろ」で

エッセイ

みなとタイムスリップ



交通科学博物館 課長

ほそかわ たけし
細川 武志

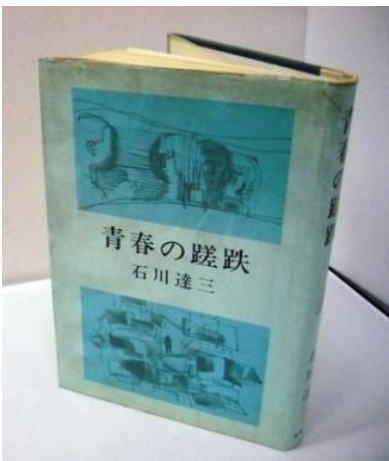
不要物は処分しても

若き日の思い出は…

我が家をリフォームすることになりました。よけい余計な物は処分する必要性が生じ、真っ先にやり玉に挙げたのが、私の「宝物」的な、書棚ほこりで埃をかぶっていた書籍と、段ボールに詰め込んだ、くだらない（妻が言うには）小説類の数々でした。実際に整理しつつ改めて点検してみると、興味対象の一貫性が無い乱読ぶりには我ながら呆れ果て、同じ小説本が二冊もあったり、読んだ形跡のない書物が出てきたりしました。しかし中学生の頃から収集？を始めた文庫

本や新書版など愛着のあるものも多く、妻に「これらの蔵書（ぞうしよ）は俺の生き様（きさま）や！」と言うと「そんなカビの生えたような想い出は捨て！」ときっぱり言い返される始末で、収納スペースの関係上、必要分以外は泣く泣く処分することになりました。

断腸（だんちやう）の思いで仕分けしていると、書物（まぎ）に紛れて「黒革の手帖（くろかわ てちょう）」ならぬ一冊の古びた「黒カバの日記帳」が出てきました。その存在すらすっかり忘れてしまっていて、今さら過去に向き合うのも面映（おもは）しくて、これは処分保留にしました。



→ 不要な書物は捨てられても、青春の思い出は眩しくて、ついほろり

先日、怖いもの見たさもあり寝酒のついでに、その日記の頁をめぐってみると、十八才から博物館に就職後の七年間ぐらいの事が途切れ途切れに乱雑な文字でのたくつてありました。内容は恋や仕事の悩みなどのオンパレードで、今から思えば実に他愛のない喜怒哀楽を記したものが大半でしたが、歳を重ねると、そんな青春の蹉跌もまぶしくて思えて、酒のせいか、ついほろりとしてしまいました。

この「団塊つれづれ草」も今回で最後です。長い間、与太話にお付き合いいただきありがとうございます。不要な書物は捨てますが、私の記憶にある若かりし頃の港区で過ごした思い出はいつまでも心に留めたいと思います。

(終わり)

× × ×

今回をもって「団塊つれづれ草」は終わります。筆者の細川武志さんには交通科学博物館課長という多忙な仕事の中で昨年六月から毎月きつちりと原稿を送って頂き、心から感謝する次第です。その味わいある筆致に読者の反響は絶大でしたが、それを裏付けるように、連載中に

は産経新聞「夕焼けエッセー」審査員特別賞(玉岡賞)を受賞されました。これからも、団塊世代を代表して、また港区民を代表して、仕事に随筆に、ますます活躍されることを心より期待するものです。

なお次号からの「みなとタイムスリップ」シリーズは、港区の郷土画家として長年活躍されてきた南市岡在住の岸本安司さん(八二)による絵画&エッセイ『ヤッさんのみなと今昔紙芝居』(仮題)の連載を予定しています。ご期待下さい。

〈編集部〉

スポーツ

ISOJーが初優勝 バレー連盟杯、波除女性会準V

港区バレーボール連盟(萩野久美子会長)主催の第二十一回連盟杯女子バレーボール大会が八月十九日、港スポーツセンターで行なわれ、二十チームが熱戦を繰り広げ、ISOJーが優勝、波除女性会が準優勝でした。

●五輪のイメージで

開会式では萩野会長が「ロンドン五輪では女性の活躍が素晴らしかったが、そのイメージを持ってママさんの底力を」、来賓の西紀人市議が「女子バレー二十八年ぶり銅メダルの感動が



→ 爽やかに選手宣誓する港南
主将・花田みゆきさん

代筆

～何でも書きます、まとめます～

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

港新聞・飯田編集事務所

TEL・FAX:06-6571-4636

Eメール:yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatoneews.sakura.ne.jp/

残る中、金メダル級の勢いで奮闘を」とそれぞれ選手たちを激励。港南の花田みゆき主将が「鍛え抜いた体と若さと美貌を武器に、リオ五輪をめざし、全力で戦い抜くことを誓います」とユニフォームを交えた爽やかな宣誓で会場を沸かせました。

試合は二十チームが三コートで各二試合を消化。上位四チームが決勝トーナメントに進みました。

●持ち味生かした決勝

決勝トーナメントではISOJIIが南市岡女性会を二対一で、波除女性会が港南を二対一で破って決勝進出。この時点で南市岡女性会と港南の三位が確定しました。

決勝では両チームとも四試合目とあって疲れがピークに達する中、スピードとパワーのISOJII、ベテラン中心の省エネバレーの波除女性会とそれぞれの持ち味を発揮したプレーの応酬で会場を沸かせました。が、田處・池田・田麦の三枚アタッカーを擁して決定力に勝るISOJIIが、一枚アタッカーの不利を以心伝心の連係で補いつつ追い続ける波除女性

会を、二対一（二二対一六、一七対二一、一五対七）で振り切り、優勝。来年六月の四区（港・大正・此花・西）大会への出場権を手にしました。

●のびのびプレーでV

優勝したISOJIIは磯路小PTAチームを母体に結成され、年齢幅は二十八〜四十五歳。



→初優勝の感激に浸るISOJII（後列右端は港区バレーボール連盟萩野会長、左端は浜口副会長、その右は敷下副会長）

毎週二回、同校での各一・五時間の練習を重ねてきました。これまで港区の三大会（連盟杯、市長杯、体協杯）を通じて三位（平成二十一年体協杯）が最高。優勝はもちろん、準優勝以上も初めてでした。

中瀬笑子主将は「ギリギリのメンバーでしたが、目標など持たず気楽にのびのびプレーした



→準優勝にも爽やかな波除女性会（後列右端は港区バレーボール連盟萩野会長、左端は浜口副会長、その右は敷下副会長）

こと、苦しくても皆で声をかけ合ったこと、新メンバーが頑張ってくれたこと、持ち味のレシーブ力を最後まで維持できたことが、三人のアタッカーの大活躍に繋が（つな）り、優勝できたのだと思います。（次の大会に向けて）やはり守りのチームとしてレシーブ力を更に磨（みが）いていきたい」と話し、チームメートと共に初優勝の喜びに浸っていました。

●屈指の安定感で準V

準優勝の波除女性会は結成三十数年の古豪チーム。過去にこの連盟杯で優勝四回、市長杯で優勝二回、体協杯で優勝二回などの実績を残し、長期に亘（わた）って区内屈指の安定感を示し続けています。長年の付き合いから生まれた遠慮のない間柄が最大の強み。四十代〜七十代の高年齢集団として、熟達した個々の技と以心伝心の連係プレーで他の若いチームの目標となり、また生涯スポーツの模範ともなってきました。

矢野幸子監督、松浦享子主将は「優勝を目標に出場したので残念な思いもありますが、決勝まで残れて言うことありません。（次の大会に向けて）レシーブ力とサーブ力を更に強化し、で

きればアタッカーをもう一人養成したい」と話していました。

●敗退チームも協力

入賞を逃（のが）した他のチーム（⑤CHIKKO⑥弁天クラブ⑦SEED⑧港南OB⑨南市岡クラブ⑩港中OB⑪港南中PTA⑫市岡小PTA⑬MISAKI⑭波除小PTA⑮TANAKA⑯八幡屋クラブ⑰AUNTS⑱築中OB⑲しろはと⑳LINK）も練習の成果を発揮して健闘。敗退後も夕方六時すぎまで様々な役割を担（にな）い、運営に協力しました。

閉会式では上位チームへの表彰などが行われ、浜口伊知江副会長が「皆さんの協力でテンポよく試合が進み、引き締まったいい大会になりました」と参加者の労をねぎらうと共に、「この後の打ち上げ（飲み会）では節度を守って楽しみましょう」と呼びかけました。

なお会場にはケア用品販売会社「くらんつ栴」（中央区）のスタッフ二人が常駐し、膝、腰、足首などの痛みを訴える三十数人に応急処置を施し、選手たちの安全を支えました。

スポーツ短信

■少年野球MINATO連合（港ヤンキース、

福岡ヤンチャーズ、市岡アトミック、港侍ジャイアンツ、弁天ホワイトボーンズ、北恩加島少年野球部の軟式六チーム）主催の第十三回大阪市長杯・第十四回MINATO杯大会は後半戦に入り、三十二強も出始める。舞洲ベースボールスタジアムめざして選手も審判団も奮闘。六五七六・七一九一駿河。

■大阪・港ボーイズ（少年硬式野球）

中学部は三年生最後の和歌山大会初戦で三本塁打を放つも九対一〇で惜敗。九月から新チーム。一日に初の大会。十五、十六日は伊勢合宿。硬式に興味ある小中学生の体験練習・入部説明随時。六五七一一・六七五三スポーツさんわ又は六〇九〇・九六一〇・一一七七森。

■港区小学生バレーボール教室「大阪みなと」

十月は六日、二十日（土）と八日（月）に池島小で、十三日、二十七日（土）に三先小で、二十一日（日）に南市岡小で九時から練習。見学・体験歓迎。対象は三年生以上。〇七〇・五六五九・四八三一萬井。

盲導犬を贈りましょう！

藤かほりさん30日にチャリティ

「目の不自由な人たちに盲導犬を贈りましょう！」と波除在住の演歌歌手・藤かほりさんが九月三十日（日）、港区民センターで「藤かほりチャリティショー」を開催します。毎夏、秋恒



→今年も開催される「盲導犬チャリティショー」（写真は昨年の様様）

例のイベントで、十八回目。藤さんは「港区民まつり」（八月四日）でも区民の参加を呼びかけました。

● 暁照夫・光夫さん

プログラムは藤さんの歌を中心に進行。「男の夢十二代」「人生荒野」「かほりの祝い太鼓」など艶も迫力もある「かほり節」をたっぷり聴かせます。

加えて今年メインゲストに人気音楽漫才コンビ、あかつきてるお 暁照夫・光夫さん（松竹芸能、八七年結成、照夫さんは〇八年に文化庁芸術祭賞大衆演芸部門大賞受賞）を迎え、八幡屋在住の演歌歌手・杉俊一さんしゅんいち、北海道出身の実力派歌手・川村正幸さんまさゆき、更に出身校でもある地元の



→「目の不自由な人たちに盲導犬を」と呼びかける藤かほりさん

←ゲストの暁照夫・光夫さん



市岡中学校吹奏楽部も参加して藤さんの志を応援します。午後一時開演。入場料二千円。

● 収益は福祉施設へ

ショーの収益は毎年、視覚障害者のための総合福祉施設「日本ライトハウス」に贈られています。盲導犬一頭の養成には約三百万円かかると言われていますが、藤さんは八年前すでに一頭分を「完納」。七年前からは「二頭目を贈りましょう」と気持ちを新たにこのチャリティを続けています。

問い合わせは藤企画（波除二・九・二、**六六**五八二・一二四一）まで。

豊かな表現力で魅了

青木美香子さんコンサート

弁天在住の歌手・青木美香子さんが八月二日夜、大丸心斎橋劇場で「サマーコンサート」を開催し、好評を博しました。

♪透明感ある歌声で

会場を埋めた三百人超の聴衆の前に、カラフルな衣装や純白のドレスに身を包み、「女の子は誰でも」「涙そうそう」「夜来香く月亮代表我的心」「ほれたんやから」「まつり」「舟唄」「スローダンス」「Sav ing all my love for you」「みずいろの雨」「歌は人生」などを次々と披露。アンコールでは「キャバレー」の熱唱に大きな拍手が送られました。透明感ある歌声と正確な歌唱力、豊かな表現力、そして、演歌からジャズ、ポップス、クラシック、ミュージカル、アニメソングに至る幅広いレパートリーをアピール。トークなどに滲み出る清純で親しみ易いキャラクター、地元港区を中心とするサポーター多数の熱心な盛り上

←「スローダンス」を熱唱する青木美香子さん（オフィスMIKARIN提供）



げぶり、またギター、ヴァイオリン、ピアノなど友情出演陣の充実ぶりも印象的でした。

来場した男性は「青木美香子さんには損得勘定なしで支えてくれる方が沢山おられ、幸せですね。私もその一人ですが、彼女の人がそれうさせるのでしよう」と話していました。

♪10月に新曲発売予定

青木美香子さんは八幡屋に生まれ育ち、常磐会短期大学幼児教育科卒。文化幼稚園（市岡元町）の教諭を二年。アマチュア時代に毎日放送

「素人名人会」で名人賞を獲得。二〇一〇年二月『ありがとうおかあさん』でCDデビュー。二〇一一年NHK朝ドラ「カーネーション」出演。『みかちゃん音頭』『スローダンス』『シーソーランデヴー』『電話』などのオリジナル曲。毎週水曜二十三時からベイコム11チャンネルで「ミカリンの大坂歌絵巻」放送中。また十月十日には新曲（テレサ・テンさんのカバー曲）「愛月くマナヅキ」が発売される予定で、既に全国のCDショップ、TSUTAYA、アマゾンなどで予約販売が始まっています。☎六五七六・六六五三オフィスMIKARIN。

芸能ミニ情報

●磯路在住の歌手・松浦ゆみさん 九月十五日

（土）十三時から茨木市唐崎公民館で開催の「椰の木会」イベントに出演予定▽九月十六日（日）十四時から上六アウイナホテルで開催の「花の会」イベントに出演予定▽九月十七日（月）祝）十七時から豊中市よみうり文化ホールで開催の「読売ファミリーカラオケ選手権」に出演予定▽九月二十三日（日）十七時から堺市の

←松浦ゆみさん



おとしり

鳳 ウェスティホールで開催の「JNC全国歌謡選手権」に出演予定▽九月三十日（日）十三時ヒルトンホテル「福岡県岳陽会」出演予定▽一九九五年『女さけ咲け』『かごめかごめ（恋迷路）』でデビュー。『もう一度』（桂三枝作詞）『大阪メロドラマ』『裏窓』『演歌みたいに捨てられて』などのオリジナル曲。昨春『涙のラブ・バード』『みなと唄』『平戸ブルース』『平戸：哀しみを抱いた街』発売。アメリカンポップスバンド出身のリズム感とパンチ力、切れのある節回しで大人の恋や大阪の心を歌う。

演劇

いづれも喜劇 大受け

弁天町市民学習センター

チームワークの大切さ学ぶ

強烈ギャグや集団ずっこけの連発に吉本新喜劇も真つ青^{さお}。夏休みに「お笑い特訓」を受け^{いかん}た子供たちが八月二十六日、その成果を遺憾なく発揮し、会場の弁天町市民学習センター講堂を大爆笑で包みました。

市民喜劇集団「弁天喜劇・笑天下」^{わらてんか}（7月号21、22頁で紹介）講師で放送作家の砂川一茂さんが「人を笑わせ、自分も元気に」「喜劇はチームワークとコミュニケーションやで」と小・中学生ら十数人を対象に「夏休み☆OH！笑い塾」を開講、六日間で集中的に「鍛え上げた」もの。

★爽やかなSF喜劇

上演されたのは『宇宙の星からワイルドだぜ』。

——夏休み最後の日、弁天港^{みなと}小学校のプー

ルの帰り、子供たちの前にいきなり現われた謎の円盤。何と、中から出て来たのは「ワイルド星人」だった。その女王や王様、王子様を喜ばせるために、子供たちの懸命のもてなしが始まる。特技披露に自己アピールに物真似^{ものまね}……。だが、なかなか笑ってくれない女王様。でも最後はお



→吉本新喜劇も顔負けの強烈ギャグや集団ずっこけが乱れ飛んだ『宇宙の星からワイルドだぜ』の一場面

互いの気持ちが通じ合い『感動の別れ』が。

ナンセンスギャグあり、駄洒落あり、集団ずっこけありのパワフルな舞台から、「優しさ」と笑いがあれば、宇宙や世界の誰とでも分かり合える」と感じさせてくれる、前向きで爽やかなSF人情喜劇でした。

◆素晴らしい企画

会場の前方で笑いまくっていた阿部卓史さん・みか子さん夫婦は息子の空也君（小学三年）の演技を観に奈良から来ました。「空也は落語を学んできたので、芸の肥やしになればと参加を勧めました。このお笑い塾は子供らが楽しみながらチームワークやコミュニケーションの大切さを学べる素晴らしい企画ですね。今日はみんな元氣一杯に演技し、楽しませてもらいました」と話していました。

★メチャ楽しかった！

舞台を終えた李嬉允さん（弁天在住の中華学校一年）、出口珠里さん（藤井寺市の道明寺小六年）、出口茉歩さん（同五年）、仲井孝士朗君（同五年）、大西あかりさん（波除小五年）、中澤海晴君（大阪教育大学付属小学校五年）、宮内

かなえさん（城東区の諏訪小四年）相阪一晴君（東淀川区の小松小四年）、相阪充陽君（同二年）らは「台詞や動きを覚えるのは難しくなかった」「砂川先生が僕たちの自由にやらせて下さったので、とても楽しかった」「半分以上は僕らが考えたんです」「ギャグやリアクションを考えるのがメチャ面白かった」「もう一回やりたい」などと口々に感想を語ってくれました。その一言一言から、皆でワイワイとコミュニケーションをとりながら、役割分担し、力を合わせて一つの作品を完成させていく、遊びが伝わってきました。

住まいの防犯レベル高めよう

①ワンドア・ツーロックは常識
②ピッキングに強いカギに交換
③窓にも補助錠の取り付けを

PHS・携帯OK ☎0120-70-5569

(ア・イ) 港カギ防犯センター

安全・安心をご提供します

港区港晴1-4-8 (港晴小学校並び)

大阪府錠前技術者防犯協力会会員
☆防犯協会会員 ☆防犯設備士第00-6738号

演劇

異世界を堪能

あんがいおまる一座

名作怪談を朗読で再現

明治・大正・昭和の怪談文学の名作が巧みな朗読劇で一層味わい深く再現されました。フリースペース「石炭倉庫」（波除6）を拠点に演劇活動を展開する「あんがいおまる一座」によるお盆特別企画「怪談を食す」が八月十一、十二の二日間、石炭倉庫で上演され、「蒸し暑い真夏に涼しげな異世界を堪能させてもらった」と好評でした。朗読はあんがいおまるさんとヨッシー原本さん。『妖怪博士』としても有名なミュージシャン・亀井澄夫さんが、電気ギターの生演奏でバック音楽を担当しました。

◆明治・昭和の10作品

上演されたのは、『ネコヤナギの下にて』（昭和二十四年・三橋一夫）、『沼のほとり』（昭和二十一年・豊島与志雄）『波の音』（昭和三十年・城昌幸）『人面狐』（大正七年・谷崎潤一郎）

『悪魔の舌』（大正初年・村山槐多）『針』（昭和四十四年・遠藤周作）『竈の中の顔』（昭和三年・田中貢太郎）『防空壕』（昭和三十年・江戸川乱歩）『破約』（明治三十四年・小泉八雲）『赤い鼻緒の下駄』（昭和四十二年・柴田錬三郎）の十作品。

◆二重構造の恐怖

このうち谷崎潤一郎作『人面疽』は、二重構造がもたらす恐怖の“化学反応的増殖”に職人作家の真骨頂が見えました。献身的に世話を焼いてくれた乞食男に対する花魁の傲慢で差別的な態度が“人面疽”（乞食男の顔が花魁の膝にできものとして現われる）という形で復讐に遭うという映画の筋書き。そして、その花魁を演じた女優が、乞食男を演じた男優の存在を確認するため関係者を訪ね歩くという後日譚。映画の筋だけでも恐怖度は十二分でしたが、後日譚のどんでん返し（“人面疽”が他でもない女優自身に生じたものであることが判る）に極限の戦慄が走りしました。

◆男の無神経と軽薄から

また小泉八雲作『破約』は、「この家にはお前

の他に誰も入れない」と死にゆく妻に誓った約束を忘れて早々に再婚したがために、後妻の身に起こった身も凍るような惨劇。封建社会における男の無神経のつけが罪なき女性にふりかかるという理不尽が、恐怖を一層鋭いものにしていました。



→名作怪談の世界を再現した「怪談を食

す」（写真は『破約』を朗読するあんが

いおまるさん）と演奏の亀井澄夫さん）

また柴田錬三郎作『赤い鼻緒の下駄』は、若い日に床を共にしたと思った少女が、実はその少女の双子の姉の亡霊だったことを知った男の回顧譚。薄幸な姉妹の結びつきの強さと男の軽薄な思い込みが交差した一夜。その甘美な時空間へ誘い戻されるかのように自殺の道を辿る男の心理そのものが怪奇といえました。

◆素晴らしかった朗読

全体を通じて、何より原作の筋書きの面白さが際立ち、そういう作品を選びすぐれた同一座の“審美眼”の高さが窺えました。その上で、朗読を担当した二俳優の技量（発声、抑揚、間の取り方、人物の演じ分けなど）はNHKラジオ「日曜名作座」の西田敏行・竹下景子コンビにも匹敵する水準を感じさせ、加えて、話の筋や朗読者との呼吸を絶妙に計った亀井氏の演奏は、聴く者の心理を“瞬間冷凍”させる鋭さがありました。

演劇ガイド

●あんがいおまる一座・ミュージカル『銀の幕

―街に映画がやってきた』 明治三十年、映画

が日本・大阪に入ってきた時の驚きや騒動を、

同一座の座付き作家であつた故綾羽一紀さん

の原作・脚本・作詞、岩城利之さんのユニーク

な作曲、あんがいおまるさんの演出で楽しむ。

九月十六日(日) 十五時、十七日(月祝) 十一

時、十四時半の三回公演。会場は「世界館」(波

除六・五・一五、JR弁天町駅から国道四三号

を北へ直進、安治川堤防突き当たり右手前角)。

前売三千二百円、当日三千五百円(学生・子供

はいずれも千六百元)。問い合わせ・申し込みは

☎六五八一・〇六六四石炭倉庫へ。

●「弁天喜劇・笑天下」実践コース発表会 放

送作家の砂川一茂さんが「人を笑わせ、自分も

元気に!」「喜劇はチームワークとコミュニケーション

ション!」と一般市民を楽しく集中的に特訓し

た成果を発表。九月三十日(日) 十五時から弁

天町市民学習センターで。観劇無料。☎六五七

七・一四三〇同センター。

音楽

真夏の空に響く歌声

町家ライブでペドロ&かずみ

灼熱の太陽の下で爽やかな歌声が響き渡り

ました。三先のフォークユニット「ペドロ&

かずみ」が八月二十六日午後、「第二回町家ライ

ブ」に出演、息の合った歌唱と伴奏でイベント

を盛り上げました。

このライブは「街の活性化」をめざし、東成

区(地下鉄緑橋駅近く)の町家前の広場を会

場に、関西のミュージシャンが一堂に交流する

イベント。昨夏から開催され、二回目。

♪しっとりラフソング

強烈な暑さの一方で時おり雷鳴も轟く中、

二人はプログラムの三番目に登場。まず、懐か

しい青春ドラマ主題歌「太陽がくれた季節」を

明るく歌い上げ、会場を盛り上げました。この

あとペドロさん作詞・作曲のしっとりしたラブ

ソング「忘れない」、懐かしのフォークソング「赤

い風船」、ロマンチックな夜の恋を表現したペド

ロ作品「シルエット」、ミュージシャン男性への

報われぬ愛を大阪弁で切々と綴った「けい子」

などを披露。最後は会場の手拍子と唱和も得

て「ありがとう 感謝」の熱唱で感動的に締め

くくりました。

♪「爽やかで温かい」

魅力的な低音を生かしたかずみさんの爽やか

で大らかな歌いっぷり、温かな雰囲気醸すペ

ドロさんのアコースティックギター伴奏が、大



→「太陽がくれた季節」を演奏する

ペドロさん(左)とかずみさん

正建築のレトロな風情と溶け合っていました。
港区から聴きにきた六十代男性(田中)は「ど

のミュージシャンも個性的で、楽しく過(こ)せま
した。ペドロ&かずみの演奏は、爽やかであり
ながら、ほっこりした温かさも感じさせてくれ
ますね」と話していました。

ライブ情報

●八幡屋出身のロックドラマー **桐田勝治さん**

きりたかつじ

九月十七日(月祝)十八時から江坂ミューズ(☎
六三八七・〇二〇三)で、同十八日(火)十八
時半から神戸ヴァリット(☎〇七八・三九二・
六六五五)で、所属バンド「ガーゴイル」の「黒帯
ロッカーズ2012」出演予定。



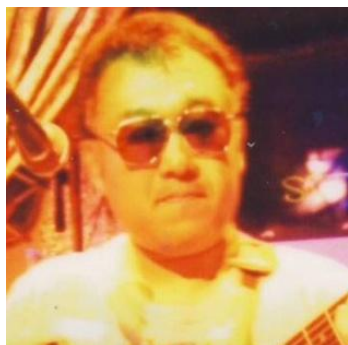
→桐田勝治さん

●三先のフォーク歌手 **ペドロさん** 九月十六日

(日) 正午〜二十時ごろ岐阜で開催の「FGま
つり」に出演予定▽十月六日(土) 十三〜十七
時に寝屋川市民会館で開催の「やすらぎ音楽祭」
に切断ブラザーズとして出演予定▽十月十四日
(日) 十三時〜二十二時半に天六音太小屋(地
下鉄天神橋筋六丁目)で開催の「第二回音太小
屋音楽祭」に切断ブラザーズとしてトップで、

がせいどう

中国武術「我成道」演武者としてラストで出演
予定▽毎月第一・三木曜二十時ザ・セラー(中
央区西心斎橋、☎六二二・六四三七)▽毎月
第三火曜二十時かつおの遊び場(中央区宗右衛
門町、☎〇九〇・五八八二・七〇一五)▽毎月
第二火曜二十時半ロージー(中央区西心斎橋、



→ペドロさん

☎六二二三・三九九九)。

●市岡元町の音楽ユニット「花☆キャラ」 十

月十四日(日)「御堂筋kappa2012」出
演予定▽ポップスから沖縄民謡まで生活に根ざ
した明るく前向きで分かりやすいオリジナルソ
ング▽VCD『マルゲリータとトマトパスタ』
『あなたらしくあたらしく』好評。



→花☆キャラの演奏風景

文化短信

●弁天町駅前のうた「こえ喫茶」ねこじやし」

人気 昭和三十〜四十年代に一世を風靡した「うた」こえ喫茶」が昨年二月、弁天町駅前に復活し、人気が広がっている。店の名前は「うた」こえ倶楽部ねこじやし」。主宰者は喜多陵介さん。一九六四年大阪市生まれ。独学で楽器演奏や作曲を覚え、大阪駅前の「ともしび」主宰や高級クラブで演奏の経験もあり、自ら伴奏と歌唱リードを担当。港新聞などで知った老若男女が来場。懐かしい童謡・唱歌やロシア民謡、日本民謡、フォークソング、青春歌謡曲などを、喜多さんや女性伴奏者のバリエーション豊かな



伴奏（ピアノ・アコーディオン）とユーモア溢れるトークで歌っている**写真**。開催は毎週土曜十四〜十六時に波除五・七・六（JR弁天町駅北口前ローソンから北へ百メートル）で。参加料金千円。TEL・FAX・六五八一・八七六〇、ホームページは<http://necojyara.saijimoto.com/>

■JDC出版「東日本大震災 語られなかった

国交省の記録」に反響

「自衛隊や消防、警察の姿は映るが、土木」が報道されない―国交省職員が見えないところで被災地支援に頑張った記録を残し、一般の人々に知ってもらうことが自分にできることだと思い至った」という著者・道下弘子さん（企画会社経営）渾身の書き下ろし「東日本大震災 語られなかった国交省の記録―ミッシオンは『NOと言わない』」写真



真IIが港区のJDC出版からこのほど発刊され、反響を呼んでいる。棺桶からちり紙まで「闇屋軍団」と化した国交省職員たちの凄まじい奮闘を再現する。B6判・千二百円十税。購入はJDC出版（波除六・五・一八、TEL六五八一・二八一一、FAX六五八一・二六七〇）へ。

出版のことなら

社史・記念誌・企業PR誌・自伝・詩歌集

お気軽にご相談ください

地元の出版社

JDC出版

TEL6581-2811
FAX6581-2670
港区波除6丁目5-5

平和のため



語り継ごう

今月の語り部

おかざき かずこ
岡崎 和子さん

81歳（夕風在住）㊦



（前身あらすじ）昭和六年に生まれた私は日中

戦争拡大の中、小学校へ進んだが、四年生の時には米英とも戦争が始まった。六年生の冬には

強制疎開^{せいかい}で生家^{せいけ}を失い、豊能郡小曾根村^{とよののおぞね}へ引越した。昭和二十年三月十三日、六月一日の大阪大空襲で家族は無事だったが、同月七日、B29は疎開先の豊能郡を襲った。母と弟妹四人^{ていまい}を防空壕^{ぼうくわう}に入れ、父の指示で食料を壕へ運び入れようとした時、私の体は吹き飛ばされた――

防空壕の中、窒息と高熱で

母と4弟妹を亡くす

それは隣家を直撃した爆弾の衝撃でした。気が付くと、我が家も目茶目茶^{めっちゃめっちゃ}に壊れ、瓦礫^{がれき}が積み重なっていました。その中を「お父さん助けて！」と叫びながらもがいていると、父は足を柱^{はしら}に挟まれて動けないようでした。父は「ワシは動かれへん。ここは危ない。お前は竹藪^{たけやぶ}へ逃げなさい」と言いました。

それで私は近くの川の傍^{そば}にあった竹藪へ走りしました。が、その途中、私を見つけた米軍機が低空で近づき、機銃掃射を浴びせてきました。すぐ近くの道路が弾丸で煙を上げました。が、構わず必死で走り通し、竹藪に飛び込むことが

できました。

◆5人が折り重なり

その竹藪の中でどれだけ時間が経ったでしょう。空襲の気配がしなくなったのを感じて外へ出、一目散^{いちもくさん}に家を目指しました。

父は壊れた家の中で、まだ柱に挟まれて動けないでいました。私は村の人たちにお願ひして助け出してもらいました。そして、どこかで治療を受けた父はすぐに戻り、防空壕のあった場所を探り当て、「ここらあたりや」と言って、村人たちと一緒に瓦礫を除き始めました。

村人が壕の中から、母・秋代^{あきよ}、四年生の治子^{はるこ}、一年生の幸子^{ゆきこ}、まだ幼い治弘^{はろひろ}、それに乳飲み子の千代子^{ちよこ}――の五人を掘り起こしてくれました。外傷はほとんどありませんでしたが、窒息と高熱で、いわば蒸し焼きのようになって息絶えたようでした。母は千代子を抱いたまま、顔の左半分は紫色に変色していました。

小曾根村ではこの空襲で、私の家族五人を含め、十四人が亡くなりました。翌朝、川の堤防に遺体を並べ、壊れた家の材木などを寄せ集めて火を着け、茶毘^{たひ}に付しました。

◆死んだ者は帰らない

その後は父と二人、天井近くまで畳を積んでいたため空襲でも潰れなかった納屋で生活をし、八月十五日の終戦を迎えました。

当日、正午から村の人たちが集まって聞いたラジオの玉音放送は、よく聞き取れませんでした。が、何となく「戦争が終わった」「日本は負けた」ということは分かりました。最後まで「日本は勝つ」と信じていたので、私は悔しくてたまらず、また、死んだ母や妹や弟たちを思うと、「一体何のために死んだのか」「死んだ者は二度と帰って来ない」と、改めて悲しみが湧き上がりました。

◆戦後は地域活動に

戦後、父は再婚して石田町に戻り、私が豊中高校に進んだ頃、東田中町（今の磯路辺り）に「新地湯」という銭湯を開業しました。私は昭和二十九年、二十三歳で結婚し、岡崎姓となりました。

世話好きだった父の影響でしょうか、二十数年前からは地域活動にも携わるようになり、これまでに、港区地域女性団体協議会副会長、

港区地域振興会女性部長、港区地域ネットワーク委員長会副会長などを務めさせて頂き、生まれ育った港区が少しでも住みよい町になればと微力を尽くして参りました。今は娘が四人、孫が九人、曾孫も二人います。



→B29の焼夷弾に立ち向かう人々
(昭和20年6月7日、北区桜橋)

◆平和で心豊かな国に

八十余年の人生を振り返って一番強く思い返されるのは、やはり戦争中のことです。思い出すのも辛すぎて、人に語るなど思いもよらなかった体験を、こうして涙もなく落ち着いて話せるようになったのは、ほんの数年前からですが、「どんな理由があっても戦争だけはしてほしくない」「人間にとって家族を失うほど辛いことはない」と心の底から思います。

同時に、戦後、経済的には大いに発展してきた日本ですが、その一方で、昔は当たり前だった、自然な助け合いや家族の情、年輩者への思いやりなどが年々薄くなっていくのが気になります。私が関わって来た地域活動でも、市の補助金が減らされたり、止められたり、全てに効率や採算が求められ、何か殺伐としたものを感じるようになりました。

亡き母や弟妹たちを含む夥しい犠牲の上に成り立ってきた今日の日本が、これからも平和であると共に、心豊かな潤いのある国であってほしいと心から願う毎日です。

(終わり)

ミニミニ案内

●交通科学博物館

①鉄道の日イベント「こ

はく 鉄道フェスタ」〓十月六日(土)、十三日

(土)、十四(日)に「SL義経号をみがこう!」

「SL義経号オープン展示」義経号を引っ張り
出せ」「出発進行!ミニ500系新幹線運転会」

「こはく音楽会」などの催し(一部要事前申

込) ②京都大学鉄道研究会写真展「鉄道のある

情景」〓中央アルプスや山口県の山間など風光

明媚な景色の中を鉄道が走る絵画的な作品や、

在りし日の片町線を走る鉄道を撮影した作品な

ど五十六点(うち絵画三点)を展示③「のりも

の王国富山パネル展」〓十月二十八日(日)ま

で開催中。知る人ぞ知る「のりもの王国」富山

県を走るJR氷見線、富山地方鉄道(アルプス

エクスプレス、セントラム)、ポートルム、万葉

線アイトラム、立山トンネルトローバス、黒部

峡谷トロッコ列車などの鉄道や、沿線の観光

地をパネルで紹介〓写真は忍者ハットリくん列

車④交通科学博物館開館五〇周年記念展「特急

百年」時代と共に駆ける」〓「特急」誕生百年
を記念して、HOGージ模型や写真などでその



歴史・変遷を辿り、特に大正・昭和初期の「客

車特急」、高度経済成長期の「電車特急」、現在

の特急に焦点を当て、その車両や時代背景、サ

ービスなどを紹介▽十〓十七時入館、月曜休館

(祝日なら開館)翌火曜休、火曜も祝日なら振

替休なし、春夏休みは開館。高校生以上四百円、

四歳〜中学生百円。JR弁天町駅すぐ。〇六五

八一・五七七一。

●関西フィルハーモニー管弦楽団「いずみホー

ルシリーズ28」

「飯守泰次郎、情熱のオー

ル・ドヴォルザーク・プログラム!」と題し、

同フィル桂冠名譽指揮者・飯守泰次郎〓写真右

〓が「彼の祖国ボヘミアには東洋的な要素があ

り、どこか日本人に通じるところがある」と熱

い共感を寄せるドヴォルザークの粹を贈る。壮

絶無比な「第8番」と「謝肉祭」、そして「誰

も弾きたがらない」といわれる超難曲「ピアノ

協奏曲」。日本音楽コンクール優勝、リスト国

際ピアノコンクール優勝の若きヴィルトウオー

ゾ・岡田将〓同左〓との協演も必見、必聴。



演奏曲目は①ドヴォルザーク…序曲「謝肉祭」

作品92②同…ピアノ協奏曲ト短調作品33③

同…交響曲第8番ト長調作品88。十月二十三

日(火)十九時からいずみホール(JR環状線

「大阪城公園駅」から歩三分、同「京橋駅」南

口から歩八分、地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビ

ジネスパーク駅」から歩五分)で。S席五千元、

A席三千五百円(全席指定・税込)。十八時四

十分から指揮者プレトック。無料託児サービス

あり(先着三十名、申込締切十月九日)。**六**

五七七・一三八一。

●**港図書館** ①休館のお知らせⅡ本や雑誌の所

蔵点検などを行う特別整理のため九月二十四日

(月)から十月一日(月)まで休館②図書展示

「東北を知ろう」展Ⅱ東日本大震災発生から一

年以上。東北とはどんな所なのか、暮らしや現

状などが書かれた本を一堂に③おたのしみ会Ⅱ

幼児を対象に毎週水曜十五時半〜十六時。絵本

の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊

び、わらべうたの紹介など。申込不要。9月2

6日は蔵書点検で休館④あかちゃんのおたのし

み会Ⅱ赤ちゃんと保護者を対象に毎月第一金曜

十一時〜十一時半。赤ちゃんが絵本に親しめる
よう工夫。申込不要▽**六**六五七六・二三四六。

●**弁天町市民学習センター・弁天シネマ倶楽部**

『**アフリカの女王**』 東アフリカの村で兄と二

人で教会を開いて暮らすイギリス人ローズは、

第一次世界大戦開戦により、ドイツ軍に村を焼

かれ、兄を失う。おんぼろ蒸気船「アフリカの

女王号」の飲んだくれ船長チャーリーに救われ

た彼女は、ドイツ軍の砲艦「ルイザ」が川下の

湖に停泊していると知り、魚雷を使って撃沈し



ようと言い出す。ぶつかり合いながらも惹かれ
合つてゆく二人。冒険あり、ロマンスありのス

リルに満ちた川下りが始まるⅡ**写真は一場面**。

監督はジョン・ヒューストン。出演はハンフリ

ー・ボガード、キャサリン・ヘバーン他。一

九五一年アメリカ・イギリス映画。カラー・字

幕、一〇四分。「心に残る名画を低料金で市民

に」と同センターが企画したシリーズの二十四

回目。九月二十九日(土)十時と十四時。各回

当日先着百名。料金は一人一回六百元(前売五

百元)。当日正午から三十分、ロビーライブ(シ

ヤニンングベイズクワイアによるゴスペル)を

予定。**六**六五七七・一四三〇。

●**弁天町市民学習センター「オーク弁天寄席」**

関西を中心に活躍する中堅・若手芸人による定

例地域寄席の二二四回目。九月二十六日(水)

十九時〜二十時半。落語、講談など多彩な出し

物で人気。出演は笑福亭學光(徳島出身の落語

家)、旭堂南鱗(大阪出身の講談師)をレギ

ュラーに、今回は桂文昇、ミスターズキンも。

オーク弁天寄席の会と同センターが主催、OR

C200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。入

場無料。当日先着百二十名。☎六五七七・一四三〇。

●ガットネロ 市岡在住の社会派シャンソン歌手・松浦由美子さん**写真**主宰の音楽喫茶。毎月様々な企画▽HAMORIBE（はもりべ）のうた★カフェ**写真**若手テノールデュオ（中川公志・小原有貴）が日本の懐かしい歌を歌う（ピアノ…古谷優子）。一飲物付二千五百円。定員十五人、要予約。第九回は十月二十六日（金）十五時、十九時▽ガットネロは天王寺区上本町六・二・三七、地下鉄谷町九丁目駅**写真**出口、☎六七六七・〇〇二一。



●港近隣センター・懐かしの名画劇場『トロイ』

古代ギリシヤのトロイア戦争を題材にした人間ドラマ。トロイの王子パリスとスバルタの王妃ヘレンの禁じられた恋を口実に、ヘレンの夫で



あるスバルタ王メネラオスとミュケナイ王アガ멤ノンはトロイを征服しようとするが**写真**は二場面。〇四年米。監督はウォルフガング・ペーターゼン。出演はブラッド・ピット、オーランド・ブルーム、ダイアン・クルーガー、ブライアン・コックス他。十月十二日（金）十四時。協力金百円▽同センターは八幡屋一・四・二〇（入舟公園隣）。問合せは☎六五七二・〇二〇（財）大阪市コミュニティ協会港区支部協議会へ。

会へ。

●シネ・ヌーヴォ「追悼特集 女優・山田五十鈴」

今年七月九日に九十五歳で亡くなった不世出の大女優を偲び、九月二十二日（土）



〇十月十二日（金）に代表作二十本を上映。山田五十鈴は新派劇俳優の父、元芸妓の母のもと、一九一七年、大阪市に生まれる。十三歳で映画界入り。サイレント期を経て『浪華悲歌』『祇園の姉妹』（三六年溝口健二）で演技開眼。以後『鶴八鶴次郎』（三八年成瀬巳喜男）**写真**右で古風で情感豊かな日本女性、『現代人』（五二年渋谷実）での豊満な色香で男を破滅へと導く悪女、さらには再婚した男優・加藤嘉の思想的影響で出演した独立プロ作品『箱根雲霧録』

(五二年山本薩夫) **Ⅱ写真左Ⅱ**での強い精神力

を持つ商人の妻、同じく独立プロ作品『女ひとり大地に行く』(五三年亀井文夫)での逞しく生活感溢れる労働女性―など幅広い女性像を演じた。生涯で二六二本もの映画に出演。舞台やテレビでも活躍した。映画ではブルーリボン賞主演女優賞、毎日映画コンクール女優主演賞、キネマ旬報女優賞など、舞台ではテアトロン賞、芸術祭大賞などを受賞。先代水谷八重子、杉村春子と共に「日本三大女優」と称される。九三



年に文化功労者表彰、二〇〇〇年には女優として史上初の文化勲章を受章。私生活では四度の

結婚・離婚、一人娘の女優・瑛峨三智子との死

別など波乱の人生だった。上映作品は『浪華悲

歌』『祇園の姉妹』『蛇姫様』『婦系図』『鶴八

鶴次郎』『芝居道』『持つて居た男』『女ひとり

大地に行く』『或る夜の殿様』『おしどりの間』

『愛すればこそ』『流れる』『東京暮色』『母三

人』『箱根風雲録』『下町』『現代人』『必殺!』

『悪女の季節』『愛のお荷物』。当日一般千四百

円。上映時間など詳細は同館(地下鉄九条⑥出

口歩三分六五八二・一四一六)へ。

●喫茶&ギャラリーハハハハハハ 月替わりで

季節感ある企画▽九月は「ハハハハハハなおか

し展」Ⅱオリジナル菓子・ケーキ等の写真展。

クッキー販売や中国茶講習、中華点心お茶会

(九月十五日)も▽十月六・八日は十周年特別

企画「こぼやしゆう展」Ⅱ生活の達人、こぼや

しゆうさんを迎えて『つくる生活』を紹介▽七

時半〜十八時(土祝十一時〜)、水日休。海岸通

一・五・二八天満屋ビル(地下鉄大阪港①出口

から西へ歩五分) 六五七六・〇八八〇。

ひとくちPR

(1行Ⅱ税込1000円)

●何でも書きます、まとめます 手紙・案内・

報告・宣伝・司会等の文案。自分史・社史・団

体史等の聞き書き。新聞・広報・書籍・会報等

の取材・編集。 六五七1・4636港新聞・

飯田編集事務所。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント

名を書いて20日必着で港新聞へ。

●交通科学博物館(ミニミニ案内) 招待券をペ

ア2組に。

●関西フィル「いずみホールシリーズ28」(ミ

ニミニ案内)招待券をペア1組に。

●弁天シネマ倶楽部『アフリカの女王』(ミニミ

ニ案内)招待券をペア2組に。

●シネ・ヌーヴォ「追悼特集 女優・山田五十

鈴」(ミニミニ案内)招待券をペア2組に。

●藤かほり「盲導犬チャリティショー」(芸能ミ